

東播臨海広域市町村域における広域ごみ処理施設整備・運営事業
非価格要素提案書（やまグループ作成）

を受けての細目協議への論点提示と提案

●提出 緑の党グリーンズジャパン 井奥雅樹

●提案にあたっての大きな視点

前回の反省を活かし、
新炉の環境面・財政面での
安定的な運転を



■5つの反省点

- (1) 新技術である「ガス化溶融炉」だったため、ノウハウの蓄積がなかった
- (2) メーカーとコンサルタントと市が「守り」に入り、責任性が明らかにならなかった
- (3) 経費・事故情報などの情報開示が徹底されていなかった
- (4) ダイオキシン数値の測定は時間がかかり、基準超過時にも対応に時間を要した
- (5) 住民への説明が後手に回り、地域の不安をかきたてた

●反省点に即した論点提示と提案

(1) 新技術「回転ストーカ」を採用しているが、ノウハウの蓄積は大丈夫なのか

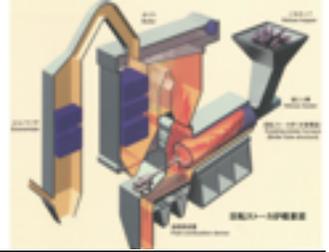
[提言]

- ・「回転ストーカ」の脆弱性のおそれ（運転技術の困難性、二次燃焼室との連携…）を重点的にチェックし、コンサルタントも「回転ストーカ」に実績のある会社を選ぶこと
- ・ゴミの受け入れで制限を過度に行わないこと

(2) SPC（特定目的会社）、プラントサービス部の責任性をはっきりとさせる

[提言]

- ・SPCの持続可能な経営のための人材派遣や財政運営の仕組みの実効性を確保すること
- ・プラントサービス部の責任性を明確にして、トラブルなどの対応にあたること
- ・高砂市は市民の立場にたってチェックしつつ、搬入ごみ検査などは行政の責任を果たすべき
- ・設計技術者も運営開始後2年常駐を
- ・地域内雇用の育成ならば、公平な受注機会の実現を



(3) 情報公開についてはより詰めた議論と細目協定（あるいは確認書）を

[提言]

- ・現状の情報公開の提案をしっかりと実現すること
- ・トラブル時の迅速な連絡体制は細目協議で詰めること（ヒヤリハットの迅速な伝達など）
- ・ゴミ量の実際の変動に応じた柔軟で効率的な運転を
- ・売電も含めて電力入札を実施すべき
- ・材料なども普遍的なものを使用し、デザイン優先ではなく実質優先の建物づくりを

(4) 測定の厳密化（グループ以外への測定依頼）、トラブル時の測定の厳密化

[提言]

- ・トラブル時には測定箇所をきめ細かくし、回数も綿密にすべき

(5) 住民説明の徹底 説明計画の提出を求めるべき

[提言]

- ・「地域住民に対する配慮」の項目の充実、強化を
- ・市民から寄せられた声への回答対応とHPアップを
- ・説明計画の提出といろいろな立場の声が伝わるような説明の試みを